

は じ め に

近年、幼児児童生徒が被害者として巻き込まれる事件・事故が増加しており、幼児児童生徒の安全確保は焦眉の課題である。

学校においては、従来から、火災・地震等の非常事態や通学中の事故などに対応すべく、安全教育や避難訓練、マニュアル作成を行ってきた。

しかしながら、平成13年6月8日に大阪教育大学教育学部附属池田小学校で8人の児童の尊い命を奪われ、13人の児童、2人の教職員が負傷を負うという大変痛ましい事件が発生した。この事件は、死傷された児童とその保護者をはじめ多くの人びとに今なお心身に深い傷を残しているのみならず、学校の防犯対策に多くの課題と反省を投げかけた。同時に附属池田小学校においては、児童等の心身のケアを含め学校や学級運営に心血を注いでいる状況である。

安全であるべき学校において発生したこの事件は、日本における「学校安全」に大きな見直しを迫るものであった。

本調査研究会は、この事件を受け、国立大学附属学校としての視点から幼児児童生徒の安全確保のための学校の安全管理の在り方、緊急時のマニュアルなどについて、全国の附属学校の参考となるような調査研究を行うことを目的に発足した。

学校における安全管理は、心身の安全管理、生活や行動の安全管理、学校環境の安全管理など多岐にわたるが、本調査研究会は、その発足の目的である防犯対策に絞って調査研究を行った。

もとより安全管理の在り方やマニュアルは、各大学・各学校、各々の地域により大きく異なり、また、時代の要請により変わるものである。従って、本調査研究会では、本報告書が、各大学・各学校等で安全管理の在り方を検討したり、マニュアルを作成する際の一助になればと願っている。

また、本報告書は、国立大学附属学校、特に小学校を中心としての視点から検討、討議してきたものであるが、併せて公立学校や私立学校の参考にもなれば幸いである。

本報告書をまとめるにあたり、アンケートに協力いただいた多くの学校園に対し、また有益で貴重な意見や資料をいただいた行政機関等の協力に対し、心よりお礼申し上げます。

国立大学附属学校における安全管理の
在り方に関する調査研究会